

## 平成22年度ユニバーサルデザイン（UD）教育の取組

1 学校名	基山町立基山小学校		
2 所在地	三養基郡基山町大字宮浦4-1		
3 校長名	篠原 英一		
4 学級数 児童生徒数	21 学級 624 人	5 実施学年 児童生徒数	2 年 106 人

### 6 取組のねらい

本学年の児童は、ユニバーサルデザインをほとんど知らない。そこで、町探検を通し、基山町の人に優しい環境作りを考える。すべての人にとって安全・安心で、利用しやすいように、建物、環境、製品、サービスなどが基山の建物や町などにあるということを学ぶ。

### 7 取組の実際（写真等を入れ具体的な様子がわかるようにすること）

5月～6月にかけて生活科「町探検」を実施した。東（店がある）・西（消防署・畑などがある）・南（団地など）・北コース（町役場、公園）の四方向へ行った。あちこちに点字ブロックやスロープなどがあり（picture.1）、そのことに気づいた子もいた。その後、ユニバーサルデザインについて基山の町、学校の中で探し（picture.2）、すみやすい町について考えた。



picture.1 町探検の様子



picture.2 学習プリント



### 8 取組の成果と課題

自分達の町や学校にもユニバーサルデザインがあることに気づくことができた。ユニバーサルデザインという学習を通して、世の中には、いろいろな人がいることを学んだ。車いすの人、病気の人、目が見えない人、耳が見えない人、小さい子ども、お年寄りなど自分達が普段見ているようで見えていなかった世の中を再認識できたようだった。

## 平成22年度ユニバーサルデザイン（UD）教育の取組

1 学校名	基山町立基山小学校		
2 所在地	三養基郡基山町大字宮浦4-1		
3 校長名	篠原 英一		
4 学級数 児童生徒数	21 学級 624 人	5 実施学年 児童生徒数	3年 110人

## 6 取組のねらい

本学年の児童は、社会科のスーパーマーケット調べでリサイクルボックスについて学習した。より良い生活環境作りにはエコの考え方は切っても切り離せない物である。そこで、子どもたちに大量生産大量消費の現状を知らせ、循環型社会の必要性を実感させるために環境問題クイズを解き、自分たちにどんなことができるかを考えた。この学習を通し、少しでも環境に配慮した生活ができるようになってほしい。

また、本学年の児童は「ユニバーサルデザイン」という言葉になじみがなく、どういう意味なのかわかる児童は一人もいなかった。そこで、ユニバーサルデザインとはどういうことであるのかを知り、ユニバーサルデザインを身近な物として捉えることができるように、学年で「ユニバーサルデザイン広報宣伝隊」の講話を聞いた。この学習を通して、自分たちの身の回りがどうすればより良い環境になるのか考えるきっかけになってほしいと思う。

## 7 取組の実際（写真等を入れ具体的な様子がわかるようにすること）

社会科の学習のまとめとして学年全員で集まり、環境問題クイズを実施した。クイズは3択問題で、答えを発表した後に簡単な解説と写真を紹介した。今の日本のゴミ問題やリサイクルの必要性について確認した後は、3R（リデュース、リユース、リサイクル）について紹介し、ゴミを出さないこと、使える物は使えなくなるまで使うことの大切さを学習した。



【環境問題クイズをしている様子】

「ユニバーサルデザイン広報宣伝隊」による講話では、ユニバーサルデザインの基本的な考え方（ex.ユニバーサルデザインの7原則「①公平に使える」「②柔軟に使える」「③使い方が簡単にわかる」「④必要な情報が簡単にわかる」「⑤ミスや危険につながらない」「⑥楽に使える」「⑦広さや大きさが適当」）、わたしたちの身の回りでこういったところでユニバーサルデザインの物が使われているかの具体例（ex.エレベーター、自動ドア、スロープ、みんなのトイレ、シャンプー・リンスの容器の印）などを、スライドや具体物（ex.左右両利き用はさみ、どんな大きさの蓋にも対応する蓋開け）などを用いて楽しく教えてもらった。校舎の中でどんなところでユニバーサルデザインが使われているかの問いかけなどには特に反応し、積極的にユニバーサルデザインの考え方について学習できていた。講話が終って教室に戻ると、紹介された以外の校舎内にあるユニバーサルデザインについて、話に来る子どもたちの姿も見られた。



【「ユニバーサルデザイン広報宣伝隊」による講話を聞く児童たち】

## 8 取組の成果と課題

自分たちは何気なく出しているゴミだが、今のゴミ問題の現状を知って、意識の改善につながったと思う。また、各家庭で行っている小さなエコを紹介し合うことができたいい機会になったように感じる。

講話も子どもたちがユニバーサルデザインの基本的な考え方について知るいい機会になった。これまで見たことのなかったようなユニバーサルデザインの紹介や、何気なく自分たちの身近にあるユニバーサルデザインの紹介に子どもたちも興味津々でよりよい環境作りについて考えることができているようだった。

※必要に応じて、適宜、枠を広げ作成すること

## 平成22年度ユニバーサルデザイン（UD）教育の取組

1 学校名	基山町立基山小学校		
2 所在地	三養基郡基山町大字宮浦4-1		
3 校長名	篠原 英一		
4 学級数 児童生徒数	21 学級 624 人	5 実施学年 児童生徒数	4 年 97 人

## 6 取組のねらい

総合的な学習の時間「やさしさを見つけよう」において、障害を持った人たちの生活の様子を聞いたり体験したりして、自分たちでできることを考えるさせる。そして、その中で人に優しいユニバーサルデザインの視点を持った考える活動を取り入れ思いやりのある心を育てていきたい。

## 7 取組の実際（写真等を入れ具体的な様子がわかるようにすること）

総合的な学習の時間「やさしさを見つけよう」の中で、社会福祉協議会の方の協力を得て地域の方々をゲストティーチャーとして招き、手話、点字、車いす、盲導犬等について講話を聞いたり、体験したりした。

手話活動では、手話の基本的な使い方を学んだ後、各自がみんなの前で手話を使って自己紹介をした。相手のことを思う心があれば通じることを学ぶことができた。

点字活動では、いろいろな道具の扱い方を学び、簡単な文字を打ち出すことが出来るようになった。また、点字で打ち出された本を見せてもらい、作られた人たちの大変さも知ることができた。



盲導犬体験活動では、盲導犬と人間との関係の暖かさ、すばらしさを感じることができた。そして、盲導犬といっしょに歩く体験をすることで正しい支援の仕方を学び、自分たちにもできるという自信をいくらかでも持つことができた。

まとめでは、障害を持った人たちとのふれあいの中で自分たちにできるやさしさを見つけることができ、これからの生活の中で実践していく意欲と関心を高め

ることができた。

## 8 取組の成果と課題

障害を持った人たちの話を聞いたり接したりすることで、自分たちにできるやさしさを見つけ実践しようとする意欲を持つことができた。また、人に優しいデザインにも関心を持つことができた。

しかし、教科の中での関心であり意欲である部分が多いため、自分の生活と直接に結びついての実践までには至っていない。今後は、日々の生活の中で「やさしさ」に気づかせ、相手を尊重する意識や思いやりの心を育てて行く活動を進めていく必要がある。

※必要に応じて、適宜、枠を広げ作成すること

平成22年度ユニバーサルデザイン（UD）教育の取組

1 学校名	基山町立基山小学校		
2 所在地	三養基郡基山町大字宮浦4-1		
3 校長名	篠原 英一		
4 学級数 児童生徒数	21 学級 624 人	5 実施学年 児童生徒数	5 年 105 人

6 取組のねらい

社会科の「自動車をつくる工業」の学習で使う人に優しいユニバーサルデザインの視点を持った自動車を考える活動を入れ、ユニバーサルデザインの意味と意義を知る。

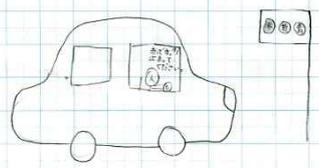
7 取組の実際（写真等を入れ具体的な様子がわかるようにすること）

「自動車をつくる工場」のまとめの段階で、自動車会社が様々な願いを持って自動車を造っていることを知り、また、教科書の巻末にユニバーサルデザインに基づく食器の説明があることを知った。そこで、今後の自動車について考える学習「あったらいいなこんな車」において、ユニバーサルデザインの視点を持った自動車デザインを考えさせた。「足が不自由な人が運転できるためには」「目が不自由な人が安心して運転できるためには」「耳が不自由な人が困らずに運転できるためには」などの視点を持って子どもなりの発想で自動車のデザインを考えることができた。

あったらいいなこんな車

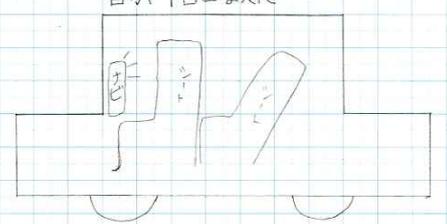
目が不自由な人のために、曲がりかどや信号などの時は音がでて知らせたり、車内に点字がついていたりする自動車があると目の不自由な人が運転しやすいと思います。

飲酒運転で事故などがおこらないように、ぶつかりそうになったら自動に止まってくれる車などがあったらいいと思います。



あったらいいなこんな車

目が不自由な人に



信号が赤になると止まる時や、道を曲がる時に、ナビが「今は赤だから止ま。てー」とか「曲がり角だから今曲が。てー」とかいいたら目が不自由な人でも運転できるんじゃないかなーと思います。

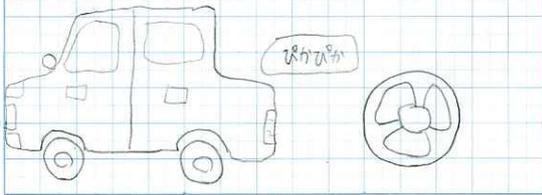
## あたらしいな かな車

目が不自由な人のための自動車

- ・ 声の出るナビがついている。
- ・ 曲がる方向などを教えてくれてあぶない時には、ブレーキを自動でしてくれる。
- ・ ちゅう車場では、場所を教えなくて、自動で動いてくれる。

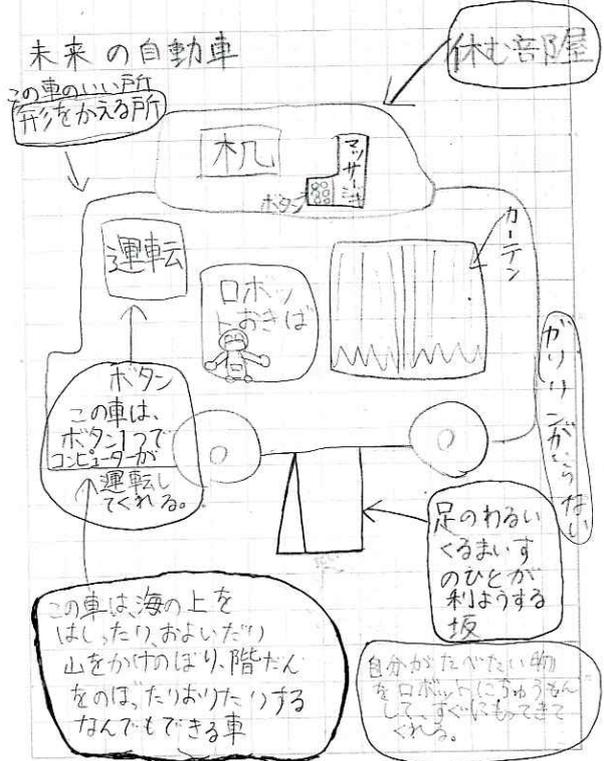
耳が不自由な人のための自動車

- ・ ふみきりの時に音を認識できる。
- ・ 認識した時は、ハンドルがひかかって教えてくれる。
- ・ 後ろからのクラクションには、バックミラーが光る。



## 工業...これからの自動車産業

### 未来の自動車



## 8 取組の成果と課題

ユニバーサルデザインの考え方を取り入れた取り組みをした後にバス旅行で自動車工場の見学をした。実際の自動車づくりでは、どのような視点でユニバーサルデザインが取り入れられているのかを意識して見学することができた。また、その後の社会の学習でも、目が不自由な人や耳が不自由な人への意識がいろいろな単位で見られた。また、人に優しい放送・人に優しい情報社会・環境を守るために自分たちにできることなどを考えようとする意識の向上がみられた。

※必要に応じて、適宜、枠を広げ作成すること

平成22年度ユニバーサルデザイン（UD）教育の取組

1 学校名	基山町立基山小学校		
2 所在地	三養基郡基山町大字宮浦4-1		
3 校長名	篠原 英一		
4 学級数 児童生徒数	21 学級 624 人	5 実施学年 児童生徒数	6 年 121 人

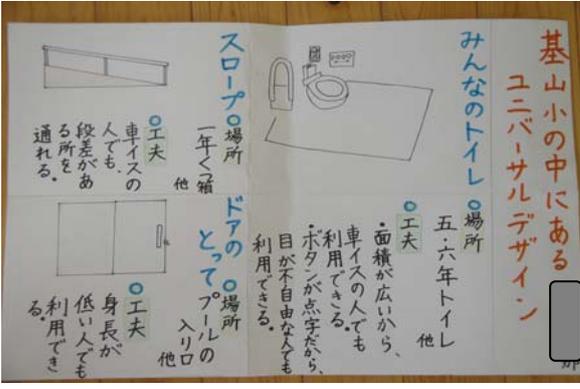
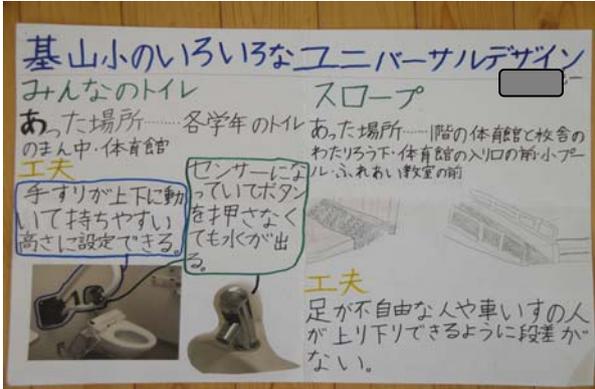
6 取組のねらい

国語「みんなで生きる町」の学習の一環として UD 教育を位置づける。教科書を使って、UD の基本的な理念を学んだうえで、基山町内の様々な施設や新築された基山小学校内の様子について各自で調べ、まとめ、報告する。

7 取組の実際（写真等を入れ具体的な様子がわかるようにすること）

基山小学校の中にあるいろいろなUDについて、グループや個人で調べ発表することでお互いに理解を深めた。また、調べた結果は模造紙にまとめ、廊下等に張り出しお互いに見合う機会を設けた。

☆ 児童がまとめた発表用の資料



☆ エレベーターの工夫を調べる児童たち



## 8 取組の成果と課題

本単元を通して、児童は UD の考え方と、その実際を知ることができた。これまで、児童は、バリアフリーについては、漠然とは知っていたが、UD とバリアフリーの違いを今回の学習を通して認識することができた。また、地域や学校内、また、自分の周辺にある道具などに UD の考え方がいかされていることに気づくことができた。そのことからさらに、自分の周りに様々な人が、ともに生活しているという事実にも目が向く契機となった。今回は、身近な UD を探すことに重点を置き、いろいろな気づきを得たが、その物が開発された理由を、さらに突っ込んで考えたり、UD の視点で生活を見直したりし、主体的に関わる活動も重視していく必要がある。

※必要に応じて、適宜、枠を広げ作成すること